



るうてる



2020年
7月
No.871

■発行所■
日本福音ルーテル教会事務局広報室
〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町 1-1
電話 03-3260-8631

■ウェブサイト■ <http://www.jelc.or.jp>

■E-mail■ jelc@jelc.or.jp

■発行人■ 李明生 koho@jelc.or.jp

■印刷人■ 精文堂印刷株式会社

■定価■ 1部 40円 (郵税を含む)

■振替口座■ 00190-7-1734

説教「笛を吹いたのに」

「日本福音ルーテル浜松・浜名教会牧師 渡邊克博

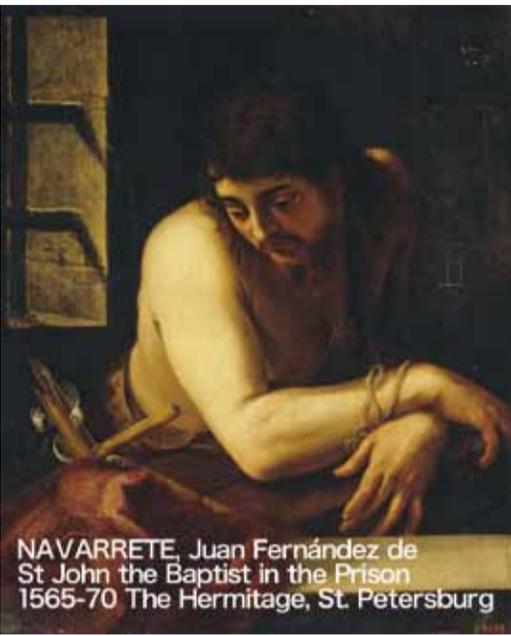
「今の時代を何にたとえたらよいか。広場に座って、ほかの者にこう呼びかけている子供たちに似ている。『笛を吹いたのに』踊ってくれなかった。『葬式の歌をうたつたのに』悲しんでくれなかった。『ヨハネが来て、食べも飲みもしないでいると』、『あれは悪霊に取りつかれている』と言いつつ、人の子が来て、飲み食いすると、『見ろ、大食漢で大酒飲みだ。徴税人や罪人の仲間だ』と言う。しかし、知恵の正しさは、その働きによって証明される。」

(マタイによる福音書11:16-19)

洗礼者ヨハネの弟子たちがイエス様のところに来て帰った後のことでした。イエス様は群衆を相手にして語られています。『今の時代を何にたとえたらよいか。広場に座って、ほかの者にこう呼びかけている子供たちに似ている。』『笛を吹いたのに』、『踊ってくれなかった。葬式の歌をうたつたのに』、『悲しんでくれなかった。』『今を生きてもわたしたちからしてみたら古代のユダヤ社会に生きていた人たちには、神様に対してとても敬虔であり信仰深さを持って生きていたように

思います。しかし、そのよくな中であつて洗礼者ヨハネやイエス様に対して、態度を頑なに留保し、温かくもなく、かといつて、冷たくもない、そのような態度で接するものが多かったようです。ここに私たちは、今の日本における教会のある種の現代的な課題を共に感じる事ができます。

浜松教会・浜名教会に着任以来、浜松教会ではパソコン教室を開催しています。生徒は教会員であることが多いのですが、ある時は大学生に、またある時は地域の方に教え



NAVARRETE, Juan Fernández de
St John the Baptist in the Prison
1565-70 The Hermitage, St. Petersburg

たこともありま。ずっと続けながら、参加者の方々が礼拝や洗礼に導かれるということがどれだけ難しいか、改めて気付かされました。ところが、私がパソコン教室という働きを通しての伝道を諦めかけていたある時のことでした。しばらく休まれておられた生徒の方からお電話を頂きました。大病にかかつて、牧師である私と話をしたので訪問して欲しいとのことでした。訪問すると、闘病生活で不安そうな面持ちをされておられました。そして、その方はその場で洗礼を志願されました。私は、それまでのその方とのパソコン教室での出来事を振り返りつつ、こちらの方から「この方はキリストとの関係を求めているのだらう」という判断を持って、接していたのではないかと気付かされました。また自身の信仰の足りないことを心から恥じました。



その方から話を伺いながら、わたしたちの世界に与えられているものの中で、病と死の恐怖に打ち勝つことができるのはイエス様の復活の福音だけであるということを感じさせられました。また、生涯の終わりの時に本当に自分を救うのは何かを改めて教える頂きました。洗礼の準備、そして、洗礼式を通して、人間という存在はどれほど弱い存在であるかということ、また、そこにキリストの慰めと愛と永遠の命への招きの声が響く時に、どれだけ深い慰めがやってくるのかに気付かされました。

このような出来事を踏まえつつ、み言葉に目を移しますと、「笛を吹いたのに、踊ってくれなかった。葬式の歌をうたつたのに、悲しんでくれなかった」とイエス様が引用されましたが、み言葉の通り心と体が踊っていないか、私たちが、私自身の方や、私たちの教会をも含むのではなにか、という新たな視界も開けてくるのです。そして、今思うことは、私たちの教会は、地域の声、社会の求めに応えることができていくのかどうかということ。もちろん、人によって教会に対する求めは人それぞれでありましょう。しかし、その中でも、キリストの福音を求めておられる方がいらつしやう、環境や機会さえ整つたら、信仰を求め始める方々もいらつしやうと思えます。もちろん、大風呂敷を広げてばかりはいられませんが、教会は、これからも地道な種まきを続けなければならぬと改めて決意をし、分かち合いたいと思いました。



伊藤卓奈

④「チューリップ」

「イエスが舟に乗り込まれると、弟子たちも従つた。そのとき、湖に激しい嵐が起り、舟は波にのまれそうになつた。イエスは眠つておられた。」(マタイによる福音書 8:23-24)

「あれつ折れていない。あの朝、目覚めてすぐに庭のチューリップ一輪を、大丈夫かなあと思ひ、おそろおそろソーツと覗き込むように見ました。その前の晩はすごい風で、せつかく一輪咲いていた庭のチューリップが今にもちぎれそうに揺れていました。それに夜中じゅうチューリップ風が吹いていたので私はつぎり折れてしまつたかと思つていました。でも凜としてチューリップは太陽の光に向かつて立っていました。」

でもいつまでもここにイエス様がいらっしゃるから、不安にならなくても大丈夫みたいです。



その時、漠然と「身を委ねて恐れないうつてこういふことなのかな。」と思ひ、そう思つた自分に驚きました。風に抵抗して、真つすぐ立ちとうとするのでもなく、逆らうわけでもなく、揺れていただけ。でも立っているなんて、あの嵐の中で冷静になるなんて、いつか私にはできるかしらうでもあのようにか弱そうに見える花一輪はそうしてただただなつて、神様の造られた自然に素直であるから、その強さを改めて感じました。自分ならきつと、風が強く吹いたなら抵抗して、もし自分が倒れそうになつたら踏ん張つて不安にもなるでしょう。

私たちには、抵抗することも大事な時もあるし、踏ん張ることも時には必要です。

日本福音ルーテル教会のインターネットサイトがリニューアルされました!



スマートフォンやタブレット端末での表示に対応するとともに、セキュリティの向上をはかりました。

<https://www.jelc.or.jp>



議長室から 大柴 隆雄

「胃がビクビク動く」?

際病院で臨床牧会教育 (Clinical Pastoral Education (CPE)) という3週間の訓練を受けた時のことでした。それはインパクトの強い訓練でした。私はそこで与えられた実存的な課題とそれ以来ずっと格闘してきたような気が...

「主は憐れみ深く、恵みに富み、忍耐強く、慈しみは大きい。」(詩編103:8)

最近「これまで自分を覚醒させてきた言葉を思い起こしています。085年秋、神学生時代に築地の聖路加国...

詩編103:8(下述)やマルコ6:34、「イエスは舟から上がり、大勢の群衆を見て、飼...

の状況による青年の教会離れを少しでも防ごうと、オンライン青年会「#おうちで集おう」を企画し、緊急事態宣言の全国拡大直後の4月18日から毎週開催するに至りました。

で賛美し神様との対話を大事にするというこの大切さを改めて感じました。今はソーシャルディスタンスを意識した生活により、会えない人たちが多くいますが、こんな時でも神様の愛は自粛しておらず、いつも神様がそばにいて寄り添っていること、隣人を思いやる心を育む時を与えてくださる神様の愛に感謝します。(九州教区甘木教会・別府碧美さん)

「教会賛美歌 増補」解説



①教会賛美歌「増補」版について

讃美歌委員会 日笠山吉之 (札幌教会牧師・恵み野教会協力牧師)

新進気鋭の小澤周平牧師による「賛美歌と私たち」の連載に続いて、目下進められている「教会賛美歌」の「増補」版についても本欄に紹介するよう求められましたので、委員長の責任を担っている私がまず筆を取らせていただきます。

まず、この場を借りて皆さんに申し上げなければならぬことは、「増補版の出版が予定より大幅に遅れていることです。当初の予定では、ルターの宗教改革500年記念の年(2017年)に合わせて、新式文と一緒に行するつもりでした。しかし、編集委員の奮闘努力にもかかわらず思いのほか編集作業が難航し、いまだ目の見えておりません。委員長としても大変責任を感じているところです。申し訳ありません。現在、「増補版」に収録予定の全54曲の譜面や原稿はほぼ出揃い、委員会では3回目の校正に取り掛かっている段階です。また、これから印刷会社との詰めの仕事が控えています。来年には「増補」版の解説と収録される賛美歌の略解です。全54曲を毎月1曲ずつ取り上げるとすると54ヶ月(4年余り)かかりますので、中には2曲まとめて紹介することもあるかも知れません。いずれにしても長丁場になるかと思いますが、よろしくお付き合いいただければ幸いです。それぞれの収録賛美歌の解説に関しては、委員が交代で執筆いたしますのでお楽しみに!

業が控えています。来年には「増補」版の解説と収録される賛美歌の略解です。全54曲を毎月1曲ずつ取り上げるとすると54ヶ月(4年余り)かかりますので、中には2曲まとめて紹介することもあるかも知れません。いずれにしても長丁場になるかと思いますが、よろしくお付き合いいただければ幸いです。それぞれの収録賛美歌の解説に関しては、委員が交代で執筆いたしますのでお楽しみに!

青年によるオンライン集会「#おうちで集おう」紹介と報告 (東教区市ヶ谷教会 森一樹) 2020年4月上旬、世間では新型コロナウイルスによる緊急事態宣言が秒読み段階にあり、それに伴って全国的に教会活動も自粛となっていました。そんな中、久しぶりにオンライン上で再会した藤崎喬史(本郷教会)、藤崎幸子(恵み野教会)角本茜(天岡山教会)と、教会に行きたくても行けず寂しい思いをしている全国のルーテル青年に向けて、またこ

中、公開礼拝ができないという状況により、二十数年の信仰生活の中でこんなに教会に行けないという事が続くのは初めてで、先の見えない毎日に不安がいつぱいでした。そんな中、西教区青年会のLINEグループでこの「#おうちで集おう」があると聞き、知り合いも全然居ない中でしたが参加させて頂きました。画面越しだけでも歌ったり、聖書を読んだり、証を聞かせてもらったり、共に祈ったり。私にとって毎週のこの時間は、とても大切なひと時となり、改めて信仰生活における仲間の大切さを感じました。大変な状況の中でしたが、私の中の信仰生活の「ページ」として強く刻まれたものとなりました。毎週準備をしてくださった兄弟姉妹の行動力と実行力は尊敬の念に耐えません。次は画面越しでなく、教会でお会い出来たらいいなと思います。(西教区大阪教会・片山聡乃さん)



今回「#おうちで集おう」に参加し、奏楽のお手伝いをさせていただきました。ありがとうございます。賛美を通して神様に、私はここにいますというメッセージを送るということであり、このような時だからこそ画面を通して皆



「いわき食品放射能計測所の現在」

いわき食品放射能計測所
運営委員 明石義信

毎年、いわき食品放射能計測所の働きをご支援いただき感謝申し上げます。

今は、新型コロナウイルスという目に見えないものへの恐怖と対処に全世界的な関心が寄せられております。ある意味において放射能被害に対する危機感が薄れてきていると感ずられます。

思い起こしていただきたいのは、目に見えないものへの対応がよく似ているのではないかとことです。経過した時間や提供された情報量によつて人々の認識は右往左往致しました。危機に对应して創り出される認識こそ慎重に吟味される必要があるであり、この認識の揺れの中で多くの人々が苦しみ、差別を受け、誤った判断が繰り返されてきました。多くの場合に比較対照され、より危険度の高いものとそうでないものとに分類され、「何々よりはましだ」という認識が作り出

されます。それが量的な問題と関連して安全なものとの境界線が不明瞭化されることが多いように感じます。経済と命との天秤という発想にも似たような比較の問題が潜んでいるように感じてしまっています。

いわき食品計測は「いわきの初期被曝を追求するママの会」のスタッフに、通常の計測とサンプリングを担当していただいています。その中で、昨年の大雨被害の際に河川から大量の放射性物質が流出しているのではないかと想定して、調査をしました。専門家からは流出水量が多く、希釈されて放射性物質検出は難しいだろうと言われていました。

しかし、被害者宅の汚泥を取り除く活動の最中、数軒のお宅の床下から1000ベクレルを超えるセシウムが検出されました。どこでも検出さ

れているわけではないので、一般的な比較は適用しにくいのかもかもしれませんが、川底に放射能に汚染された汚泥が堆積されていたからこそ、起きた事象であると考えています。濃縮された汚染土が見つかり、被害が一部に凝縮される事実が繰り返されています。時間が経過しても、その事実から目をそらさないことが求められていると感じています。



熊本ライトハウス

施設長 緒方健一

この春、法人内の異動により熊本ライトハウス（障がい児入所施設・障がい者支援施設）に着任し、私にとつては35年ぶりに初任地に帰ってきたことになりました。当時は「盲ろうあ児施設」で、約90名の子どもたちが暮らしていました。障がい児のリハビリとしてスカウト活動が導入され、養護施設の子どもたちと共に野外キャンプを営む子どもたちに感銘を受けたことが思い出されます。現在は成人のための施設でもあります。

着任にあたり、チャプレンの安井牧師に就任式をしていただき、気持ち新たにいたしたところですが、まもなく利用者に肺炎が発症、緊張が高まりました。続いて体調不良による2度の救急車要請、骨折事故の際は発熱があつたことで医療機関のたらい回しに遭いました。重ねて施設内での感染リスクを抑えるために、利用者が大切にされている家族との面会や外出、通

院についても制限が求められるようになりました。利用者もより支え手である職員も同様です。そのような中であつて利用者の不安や淋しき、ストレスを和らげようと、豪華なバーベキュー大会が計画され、皆さん心も身体も大満足でした。ちなみに入院中の利用者の方は回復されつつあります。非常事態宣言が解除され、今後は感染予防を徹底させ、日常を取り戻していきます。6月はじめには、利用者が讃美歌を歌い、CDによる牧師からのメッセージによつて、祈りの時が持たれました。熊本ライトハウスと健康教会との繋がりは、歴代牧師、施設の利用者職員によつて保たれています。教会が実施した「ハナミズキの祈り」には、利用者からコロナ禍が早く収束できるようにとのメッセージが寄せられました。礼拝に集うことが許されず、私たちに出来ることはただ神様に祈ることです。



実施しました。通常の形での奨学金も当施設を卒業する子どもたちが活用する流れを作つていきたいと思います。

新型コロナウイルス感染症に対する喜望の家と釜ヶ崎での取り組み

秋山 仁
（喜望の家代表・豊中教会牧師）

新型コロナウイルス感染症の日本国内での発生からほぼ5カ月。幸いなことに釜ヶ崎地域内では、労働者に感染者が出たという情報は聞いていません。

喜望の家では、4月から5月末まで、開館日を週5日から4日にして、手洗いとマスクの着用、換気に気を付けながら活動してきました。食事会や公共交通機関を利用した遠出は自粛してきました。ボランティアの方たちも2カ月間はお休みしていただきましたが、日々のプログラム、相談活動はできる限り行ってきました。

地域内での動きです。NPO釜ヶ崎支援機構は、釜ヶ崎内で野宿者が利用するシェルター（臨時宿泊所）を管理運営していますが、新型コロナウイルス

ウィルス感染症の発生時から、対策を大阪市に要求し、また独自の対策をとりました。3密を避け、シェルターの定員を200名に制限、登録制にして決まったベッドを使用してもらっています。大阪府が借り上げたアパートにも40名ほどが同様に宿泊できるようになっています。

シェルター出入りの際の体温測定、手の消毒、ベッドは間隔をあけて使用し、棟内は常時換気を行っています。発熱者が出た場合は、カーテンで仕切られた区画を利用して医療センターで受診してもらおうようにしています。

現在、まだ該当者は出ていません。新型コロナウイルス感染症の影響で、失業したり、住居を失い新たに野宿状態に至る人たちのための緊急相談会が、野宿者支援活動を大阪市内で続けている21団体が協力して、5月末までに4回大阪市内で行われました。相談会前日に夜回りを行い、相談会のチラシを配布します。100件を超える相談があり、就労支援、居宅支援を行っています。クラウドファンディングで宿泊費と食費（弁当代）を集め、ホテルなどに一時的に宿泊できるようにしています。相談

会は、今後も随時行つていく予定です。マスク2枚と10万円の給付金申請書は、地域内で生活保護などを受給している方には届き始めていますが、野宿状態にある人たちは、まだ支援の外側に置かれています。緊急事態宣言は解除になりましたが、コロナ感染のリスクは依然としてあります。喜望の家も、地域内の支援団体と協力して、今後も行政に有効な新型コロナウイルス対策を要求していきます。

住所・電話番号変更

- スオミ教会
電話番号変更
03(6263)7109
- 栄光教会
住所変更 牧師居住地が、藤枝礼拝堂から焼津礼拝堂となつたため。
425-0027
- 静岡県焼津市栄町5の16の27
電話・FAX共用 054(66)89724
- 高蔵寺教会
電話・FAX共用番号変更
0268(91)0244
- 福山教会
電話番号廃止
- 松江教会
電話番号廃止
- 松山教会
電話・FAX共用番号変更
089(93)1070

